

旧街道ウォーク333★古代東海道[26] [古代東海道 2008 その5] 「府中の森～松庵」

活動記録

【日 時】 2008年5月10日(土) 11:00～13:00 (中断) 小雨のち雨
2008年5月18日(日) 12:00～18:00 晴れ

【コース】 府中の森(東府中駅) → 浅間山 → 多磨町<昼食休憩・中断> → 大沢 → 野崎 → 上連雀 → 牟礼 → 三鷹台 → 松庵(西荻窪駅) (9km)

【参加者】

(5/10) ○大竹亮、磐田利江子、岩田清、梶川義実、片桐拓朗、加藤栄子、児山文一、斎藤健一、古里実、谷貝等、脇野真澄、脇野陽子 (12名)

(5/18) ○大竹亮、磐田江利子、岩田清、△片桐拓朗、加藤栄子、北橋伸一、児山文一、高梨健一、千川明、長澤純一、水谷晴子、△谷貝等、山根純一、脇野真澄、(14名)

(○は主催者 △は部分参加)

【概況説明】

5/10は集合時に小雨が降り出しましたが、前回の終点である府中の森公園となりの航空自衛隊南側から東へ回り込み、人見街道へ入りました。しばらく進んだあと、浅間山公園内の人見四郎墓所と人見稻荷神社へ立ち寄り、人見街道へ戻ってから多磨霊園正門入口へ。その先多磨駅まで辿り着いたところで雨が本格的になってきたため、昼食休憩後、中断としました。

8日後の5/18、多磨駅から再開して東へ向かいました。近藤勇ゆかりの史跡を見た後、調布飛行場隣接の武蔵野の森公園では掩体壕を、その先、野川の水車小屋、出山横穴墓群と見学しながら進みました。三鷹市内では野崎八幡、鷹場標石へ立ち寄りながら、三鷹市役所東側へ。ここで人見街道と別れ「あいのみち」と呼ばれる細い道を通り、牟礼地区を通過して小高い牟礼神明神社で小休止。その先、玉川上水、神田川を渡って武蔵野市と杉並区の市区境を通り、松庵2丁目北端で終了となりました。



農家の屋敷が続く人見街道 (5/10)



近藤神社付近の人見街道 (5/18)

【評価結果】

今回の区間は武蔵野台地の上であり、古代官道らしさについては、全体の区間が直線的なコースであったことから比較的高い評価となりました。沿道風景については、新緑の季節であり、野川付近の緑や並木が多かったことから評価が高くなりました。古道の史跡については、人見氏の墓所や鷹場標石が挙げられましたが、古代道としての史跡は少なくあまり高くない評価となりました。古道の案内表示の評価は低くなりましたが、これは人見街道の案内以外に古道の案内表示がほとんどなかったためです。全体を通じての評価点は3.67で、かなり高い評価でした。

1◆全体を歩いた感想 評価点：3.67 内訳：AAABBBBBB

A：自然景観が残る大きな公園が多く、大変魅力的だった。前半に見所が多く、後半はひたすら歩くというのは堪えましたが、二度にわたり楽しく歩けました。ありがとうございました

A：新緑の武蔵野を快適に歩くことができた。全体に直線状の道筋で、浅間山、野川、牟礼の丘、神田川など自然地形を体感でき、また水車農家やケヤキ並木に歴史を知ることができた。史跡の多く残る東府中の郊外農村地帯から、家屋の建て込んだ西荻窪の都区内住宅地へと歩き、江戸時代から現代への旅をしたかのようだ。

A：飛行場と公園が点在する緑の多い地域だと思った。

B：概ね人見街道に沿って歩くことになったが、浅間山の人見氏の墓所から幕末の近藤勇の生家など、街道の長い歴史が伝わってきた。

B：人見街道は直線的で、大木の並木や旧家が残っていて、時代を感じさせる道だった。

B：人見街道は、歩道がほとんどない箇所もあったが、思ったより歩き易かった。

B：人見街道は、街道らしく良かった。

B：前半は自然地形を利用したみどころが多かった。後半は完全な住宅地であった。

B：見所が多く充実していた。

2◆特に魅力的だったところ

○浅間山公園：突如出現する「山」。雑木林の山道は市街地とは思えない魅力がある。

○浅間山公園：武蔵野の面影をよく残し、人見四郎の墓跡も謎めいている。

○浅間山公園：小高い山に貴重な武蔵野の林が残る。平坦な武蔵野台地の中で目印だったであろう。

○人見稲荷神社：参道がいくつかの道路をまたいで人見街道まで通じている。

○人見稲荷神社参道：街道から続く参道は味わい深かった。

○人見稲荷神社参道：旧道から境内まで、かなり長い区間を道路や畑を横切って参道がつながっている。立派な鳥居や石畳がある旧道側入口と鬱蒼とした森の境内は立派だが、途中は畑の中の路地みたいになるのが意表をついている。

○多磨霊園までの「門前町」は東京にしかない、独特のものだと思う。

○東京外国語大学キャンパス：北区西ヶ原から移転した新しいキャンパスに新緑がまぶしい。

○武蔵野の森住宅地：建物の景観を統一し、花や緑をふんだんに植え、道路を公園のようにした美しい住宅地。

○近藤勇の生家・墓：農民出身の近藤勇が最後まで幕府に忠義を尽くしたことに、いつもながら感動する。

○近藤道場付近：近藤神社、近藤勇墓所、撥雲館などが集中し、新撰組の時代を思い起こさせる。

○龍源寺の葵の御紋の石燈籠：刻まれた文字から巖有院殿（4代将軍徳川家綱）の一周忌に奉納されたものと思われるが、新たな発見だった。

○武蔵野の森公園：隣接する調布飛行場に離着陸する飛行機を間近に楽しめる。

○武蔵野の森公園+掩体壕：調布飛行場に隣接し、広々した芝生や小山、池などが快い。掩体壕（えんたいごう）は、貴重な戦争遺構。

○掩体壕：初めて見た。

○掩体壕：このような物が多数あったことに驚いた。

○大沢水車小屋と野川・国分寺崖線：緑、水、古びた建物の佇まいと3拍子そろって心和む場所。

○野川周辺：水車小屋や山葵田が残るなどの段丘崖下の自然の風景。

○野川流域：安らぎを感じる美しい景観。

○水車経営農家・峯岸家：よくぞ残してあるという感じ。

○野川水車農家一帯：野川に沿って水車農家が保存され、内部の説明が聞けるし、対岸にはわさび畑や横穴墓、自然観察路などがあり、国分寺崖線をうまく活用している。

- 国分寺崖線：竹林やわさび田があり、崖が自然に近い形で残されているのが良かった。
- 国分寺崖線：わき水で山葵畑ができています。ここに限らず、崖線一帯に自然が多く残る。
- 野川から国分寺崖線へ向かう竹林
- 国際基督教大学キャンパス：きわめて広大なキャンパスに武蔵野の雑木林の面影が残されている。ヴォーリズゆかりの一粒社設計の建物群はさぞすばらしいだろう。
- 大沢からのケヤキの街路樹：歩道も広げられていた。
- 大沢付近のケヤキ並木：人見街道に沿った豪壮な農家の屋敷林が、道路拡幅後も歩道のケヤキ並木として残されている。土蔵とケヤキが並ぶ姿は武蔵野の原風景である。
- 三鷹天命反転住宅：荒川修作の大意欲作。奇抜な形状、大胆な色彩ながら、不思議と住んでみたくなるような親しみがわく。
- 野崎八幡神社：街道の南側に鎮座する古社。門前の蔵のある商家群が目を引き。
- 野崎八幡神社：道が神社をよけるように曲がっており、貫禄を感じた。
- 野崎八幡神社：境内の薬師殿では毎年「だんごまき」の行事も行われるとの案内板もあり、今なおこの地域の氏神様として崇められていることを実感。
- 鷹場標石（長久寺・三鷹市役所）：「従是東西北」というスケールの大きい表示がかつての武蔵野の広大な原野を想像させる。
- 新川付近の旧道：人見街道の一路北に古道の痕跡が残る。バス通りと交差する地点に信号付きの横断歩道があるなど、以前からの主要路らしいことがわかる。
- 新川付近のマンション南側の緑道：吉祥寺通りの東側に立つ3つのマンションの敷地内に南側道路に沿って緑道が連続して整備され、快適に歩くことができる。まるで古道が復活したようだ。
- 牟礼神明神社：高台にあり、静かなたたずまいだった。
- 牟礼神明神社：平坦な武蔵野台地であって、小高い丘が目立つ。
- 玉川上水：江戸時代初期に短期間で切り開かれ、今なおオアシスとなっている偉大な人工物を目のあたりにして、あらためて玉川兄弟の偉業に感心する。
- 立教女学院キャンパス：神田川北岸の南向き斜面に立地する広いキャンパスに、由緒ある美しい建物が多数並んで雰囲気がある。
- 松庵の住宅地：戦前からの良好な住宅地の面影が今も残る。インテリ文化の漂う一帯である。
- 西荻窪のヤキトリ横丁：駅南口にあって周囲とは全く雰囲気の違う一角となっている。路地にはみ出した椅子やテーブルで楽しみたい。



広々とした武蔵野の森公園



新川付近のマンション敷地内に続く緑道

3◆古代官道らしさ（直線性、短絡性、古代史跡等） 評価点：3.50 内訳：AAABBBBC

A：ほぼ一直線に段丘を登り谷を渡るルートであった。

A：府中から新川までほぼ一直線であり、その後も北東へ短絡している。平坦な武蔵野台地であって、浅間山と牟礼神明神社という小山が目印だったのである。

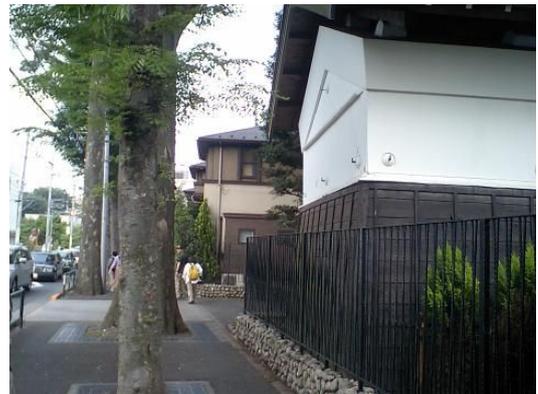
- A：人見街道の直線性は古代官道らしさを感じさせる。
 B：平坦であり、かつ直線が多かった
 B：人見街道は直線で、古代官道らしかった。
 B：特に三鷹市役所手前の付近はずっと向うまで信号が立ち並んでいるのが見渡せたのが印象的。
 B：基本的な道筋はほぼ残っていると思う。また、町境、市境になっている部分も多く、その可能性が高い。
 C：国分寺崖線の横穴墓は、いきなり古代にタイムスリップしたような感じで印象が強い。

4. ◆沿道の魅力的な風景 評価点：3.89 内訳：AAAABBBBB

- A 緑溢れる公園が多く、自然が多く残っていることに魅力を感じた
 A：野川周辺の水と緑、武蔵野台地上の緑の多い風景。
 A：浅間山の森、ICUの森、大櫓などの樹木が美しい。
 A：前回までの花咲く風景から、今回は新緑の風景となった。浅間山の森、多磨霊園や外語大の樹木、武蔵野の森公園、野川と国分寺崖線、牟礼の里、玉川上水など、自然景観が美しい。武蔵野の森住宅地、三鷹天命反転住宅、立教女学院キャンパスなど、デザインのすぐれた施設も多くあった。
 B：野川の周辺風景が良かった。
 B：浅間山公園、調布飛行場周辺緑地、野川流域、玉川上水など美しい緑の景観が残っている。
 B：野崎付近の人見街道はケヤキ並木や大きな敷地の屋敷がよく残っている。
 B：人見街道沿いの旧家は敷地も広く蔵もあり、趣があった。
 B：人見街道の両側の農家や櫓並木は風情があった。



野川ほとりの大沢水車農家



人見街道・野崎付近の櫓並木と旧家

5◆古道にふさわしい史跡 評価点：3.00 内訳：ABBBBBD

- A：浅間山の人見氏の墓所。
 B：出山横穴墓群には驚愕しました。
 B：鷹場標石に武蔵野の「何もなさ」を感じた。
 B：野崎八幡、牟礼神明神社は古い神社の雰囲気があった。古道とは関係が薄いだが、近藤勇関連の史跡、鷹場標石などが印象的。
 B：浅間山の人見氏墓所、調布飛行場の掩体壕群、近藤道場撥雲館、大沢水車農家、野崎八幡神社、牟礼神明神社など、魅力的な史跡は多かったが、古代までさかのぼるものは少ないように思う。
 D：古道を古代官道と限定するなら、今回は何も見当たらなかった。

6◆古道や歴史の案内表示 評価点：2.75 内訳：AABBBCCC

- A：府中市内は特によく表示されている。紅葉丘文化センターの「人見街道」案内標石には「大宮街道」「下総街道」とも呼ぶと書かれていた。三鷹市の「下連雀町の歴史」も優れている。

A：人見街道については説明があった。

B：史跡についての案内は多かったが、古代官道については見あたらなかった。古代東海道（東山・東海連絡道）であることが、学説上も確定せず、あるいは地元で認識されていないのではないかと。

B：前半の史跡は良く案内表示されていた。

B：近藤勇生家の周辺は解説が充実していた。

C：近藤勇に関するものはあったが、古道関連の案内表示は乏しかった。

C：人見街道の案内は少しだけあったが、他は特になかった。

C：あまり見受けられなかった。

7◆古道を活用したまちづくりの方向について。

○現在は中央線沿線に人の流れが集中しているが、現三鷹市役所の辺りが旧三鷹村役場があったことから地域の中心であったと考えられ、どの方向にも行くことができる利便性の高いバス便を考えると、三鷹市役所前バス停はこの地域のへそに当たる。旧道の歴史とバスの利便性を活かした「三鷹のへそ」づくりはできないだろうか。

○沿道に史跡は多く、大半の区間は人見街道という旧道であると認識されているので、さらに古代東海道であった可能性が高いことについての認識を深め、発掘を進めたり、郷土研究や地域活動の中で掘り下げてもらいたい。また、沿道風景が魅力的なので、市境を超えたウォーキングコースの設定も面白いと思う。

○府中市も三鷹市も歴史を大切にする姿勢が見られた。

○出山横穴墓群にしても、三鷹市役所敷地内にある鷹場標石にしても、わかりにくい場所にあり、案内板も見受けられない。いずれも自然が残る魅力的な場所にあるのもったいない。

○野崎あたりのケヤキ並木は立派なのに車の量が多くて残念。もっと歩き易い歩道が整備されればと思います。

○人見街道は、東八道路ができて交通量が多いので歩道を整備してもらいたい。(以前はほとんど歩道がなかったので少し進歩したか...)

○人見街道は、東八道路に自動車道の役割を譲っていることから、歩く道としての整備が行われてもいいと思う。

8◆その他、今回の企画や気づいた点などについて。

○古代の横穴墓、近藤道場、戦時中の掩体壕、天命反転住宅と、時代も要素も多岐にわたる盛りだくさんな企画で、とても充実感がありました。(H. M)

○前半は見所が多く楽しい寄り道が多かった分、途中は若干急ぎ足になりましたが、終盤の三鷹台団地あたりから牟礼神明神社や玉川上水の流れ、そして立教女学院の建物が見られ本当に盛りだくさんでした。(J. Y)



落ち着いた景観の武蔵野の森住宅地



斬新なデザインの三鷹天命反転住宅

○立川面（Tc 面）から野川を越えて国分寺崖線を登り平坦な武蔵野面（M面）を行き、最後は武蔵野面上を流れるいくつかの谷を渡って目的地に到着した。全く平坦なイメージのあった地域であるが、実際に歩いてみると大きな起伏があり、古代東海道は、北西から南東に流れる河川にほぼ直角に交わり一直線に伸びていることがわかった。（H. Y）

○身近な所だっただけに、自分が見たいというよりも皆さんに見せたいと思う場所を事前に各自提案したり調査したりして、中身が充実していた。主催者の○氏はもちろん、T氏にも感謝。また、主催者の○氏が用意してくださった明治時代初期の地図は大変タイムリーだった。三鷹市役所東から吉祥寺通りを横切って、「下連雀の歴史」の看板のある場所までの小路は、興味深い道で、古代へのロマンを秘めているようにも思える。（J. N）

○野川公園や野川周辺は、今でも時々出かけていく場所なのですが、昔の飛行機の施設や水車小屋、横穴墓群など新たな発見がありました。また人見街道は、今でも主要街道として使われていることがわかりました。（T. K）

○今回の区間は、自分が子供のころのテリトリーでした。しかしながら、その頃の印象とは大分変わっており、自分の年を再認識させられました。（S. K）

○10日の昼食後、バスで三鷹市役所まで行き、人見街道旧道を発見したことは、歩いてみることの重要性を感じた。（Y. K）

○2週にわたり、ありがとうございました。（M. W）

■主催者より

今回のコースは沿道の見所が非常にたくさんあり、事前調査の段階では行程の1/3の大沢までで2/3の時間が過ぎてしまうという状況で、とても心配でした。しかしながら、たまたま雨が降って途中で中断になり、2回で全行程を踏破できました。大半が武蔵野台地上の平坦地ということで、古代史跡はさほど多くありませんでしたが、浅間山、野川、牟礼山などに自然地形を感じ取ることができ、また近世・人見街道の沿道農家や欒並木が風情を残していました。さらには、貴重な戦争遺産や美しい現代都市建築も多くあり、古代から現代までの武蔵野見聞録といった趣きでした。特に、上連雀（三鷹市役所）から新川にかけての人見街道の一路北のひっそりと残る小径は、雨天中断後にたまたま有志3人（梶川氏、谷貝氏、私）で路線バスツアーを敢行して発見したものでした。さらに、この小径が吉祥寺通りを横断した先で、建ち並ぶ3つの別々のマンションの前庭が連続して遊歩道（緑地）に提供されている様子は、まるで古代東海道の現代における復活のようで、感動的でありました！ 参加された皆さん、ありがとうございます。これから先も、古代東海道が現代の東京の街の中にひそかに佇んでいる光景を探しながら進みたいと思います。次回も、是非一緒ください！（大竹 亮）



東京外国語大学・新キャンパスにて(5/18)



浅間山近くの人見稻荷神社(5/10)